

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぐんぐん 千代崎 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 5日 ～ 2025年 2月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25 (回答者数)	18
○従業者評価実施期間	2025年 2月 5日 ～ 2025年 2月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年4月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との定期的な面談や、本人への聞き取りを通じて支援ニーズや思いを丁寧に把握し、それを個別支援計画に反映したうえで日々の支援に落とし込む体制が整っています。子どもたち一人ひとりに寄り添った、きめ細やかな支援が行われていることは事業所の大きな強みです。	「できないこと」に注目するのではなく、「できること」「好きなこと」「得意なこと」に着目し、子どもたちの自己肯定感を育むことを意識した支援を日々実践しています。小さな成功体験を大切にしながら、子どもたちが自信を持って活動に取り組めるよう工夫しています。	今後は、子どもたちの「できたこと」「がんばったこと」を職員がより積極的に言葉にして伝えることを通じて、肯定的な関わりをさらに強化していきます。日々の小さな成長や努力を見逃さずに拾い上げ、子どもたちが安心して楽しく過ごせる環境づくりをいっそう充実させていく予定です。
2	発達の5領域（健康・運動／認知・言語／社会性・人間関係／生活・環境／感情・意欲）を意識した支援活動を行っています。これにより、子どもたちのコミュニケーション能力や対人関係のスキル向上に向けた基盤づくりが着実に進められるよう努めています。	個別支援計画に基づき、子ども一人ひとりに応じた支援を丁寧に実施しています。定期的な評価やモニタリングを通じて進捗状況を把握し、次の課題や目標を明確にしながら、継続的な支援の質の向上に努めています。	特に土曜や祝日などのイベント活動においては、内容が固定化・形式化しないように注意を払い、子どもたちが新鮮さを感じられるようなプログラム構成を意識的に工夫しています。今後も、子どもたちの興味関心に合わせて多様な活動を取り入れ、参加意欲を高める支援を継続していきます。
3	関係機関との定期的な連携を通じて、個別支援計画や専門的支援計画の作成に取り組んでおり、子どもたちに対して一貫性のある支援体制が構築されています。外部との情報共有を重視し、連携による支援の質の向上が図られている点は、大きな強みです。	学校の先生などとの面談を月に1回以上実施し、学校と事業所双方での子どもの様子や課題について相互に共有しています。現場での具体的な情報をもとに、支援の方向性をすり合わせ、より的確かつ質の高い支援が行えるよう工夫しています。	今後は、学校と事業所の双方での子どもの様子をさらに丁寧にすり合わせ、共通の課題や支援目標を明確にしていくことが課題です。一貫した支援方針に基づく体制を強化することで、子どもにとってより統一感のある安心した支援環境の実現を目指します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在、児童が不穏な状態になった際にクールダウンできる専用の個別スペースが確保されておらず、状況によっては他の児童の活動にも影響が及ぶことがあります。落ち着くための明確な「居場所」が見えにくいことが課題です。	児童によって落ち着ける環境の感じ方や必要とする刺激の度合いが異なるため、一律的な対応では十分に配慮しきれないという難しさがあります。スペース自体は基準以上で確保されているものの、その活用やゾーニングの工夫、対応する職員の判断力にも課題があると認識しています。	限られたスペースの中でも、「個々」や「時々」に応じて柔軟に対応できるよう、音に敏感な児童にはイヤーマフを用いたり、一人で過ごしたい児童には机の配置を工夫して簡易的な居場所をつくるなど、環境面の工夫を継続しています。加えて、そうした配慮を適切に判断・実行できるよう、職員のスキルアップや感覚的配慮に関する研修・共有の機会を強化し、支援の質全体を底上げしていくことも課題と捉えています。
2	第三者による外部評価をこれまで実施しておらず、支援や運営について客観的に振り返る機会が不足している。外部の視点を取り入れることができていない点は、今後の質の向上に向けたひとつの課題である。	現場での支援や日常業務が優先される中で、外部評価の必要性や有効性に対する意識が薄れつつある。実施に向けた段取りや、誰にどのような視点で評価してもらうかの整理が進んでいないことも一因となっている。	今後は、第三者評価の実施を視野に入れ、その意義を改めて職員間で共有する機会を設けていく。評価を通じて事業所の現状や取り組みの良さ、改善点を客観的に確認し、より質の高い支援につなげていけるよう前向きに検討していく。
3	保護者会の開催は行っておらず、保護者同士が交流や意見交換を行えるような機会が十分に設けられていない状況です。家庭間でのつながりや情報共有の場が少ないことは、今後の支援体制づくりの観点からも課題となっています。	保護者会の必要性は感じているものの、これまで保護者からの具体的な開催希望は多くなく、実施に向けた検討や準備が進んでいなかったという背景があります。今後は、そうした声により丁寧に耳を傾け、必要な機会のあり方をともに考えていく姿勢が求められると感じています。	個別支援計画の更新時、必要に応じたモニタリングや日々の送迎時などのコミュニケーションの場を活用し、保護者会の必要性についての提案や対話の機会を増やしていきます。また、アンケートの実施等を通じて保護者の希望や意向を把握しながら、家庭との連携強化とともに、保護者同士のつながりが生まれるような場づくりを検討していきます。